

巻頭言

杏林医学会雑誌第 40 巻の発刊に寄せて

杏林大学医学部教授 渡 邊 卓

杏林医学会雑誌の巻頭言を過去に遡って読ませて頂きました。そのテーマは「言葉の正しい使い方」から「コミュニケーションとは?」、「研究者のモラル」など多岐にわたっており、いずれも、まことに示唆に富む、読み応えのある内容のものばかりでした。

この中で、長澤学長の巻頭言には、1970 年、当誌創刊にあたっての学園創設者、松田進勇先生のお言葉が紹介されています。それによりますと、松田進勇先生は「人類の健康と福祉に生涯をかける者は、その業績を青史にとどめる必要がある。」と述べられたとのこと。これはおそらく、研究成果や経験についての情報の共有が、人類の健康と福祉にかかわる領域では特に重要である、ということを指摘されたものと思われます。当然のことではありますが、こういった情報の共有のために最も重要な役割を果たすのが「論文」です。（「論文とは何か?」という問題については、跡見医学部長が執筆された巻頭言の中で詳しく論じられています。）

創刊から約 40 年が経過した今日、松田進勇先生のお言葉はさらに重要性を増しつつあるというべきであります。杏林医学会会員の皆様には、今一度、このお言葉を噛みしめて頂きたいと思えます。そのうえで自らの研究成果や臨床の中で遭遇した事例を出来る限り論文として記録に留め、その情報を時間と場所を越えて他の多くの医学・生命科学の研究者、医療・福祉関係の従事者と共有するという積極的な姿勢を堅持して頂きますようお願い申し上げます。言うまでもなく、これは大学に籍を置く者の責務でもあります。そしてこのような努力の積み重ねが会員諸氏個人のみならず、杏林大学の実績として評価されることとなります。

杏林医学会雑誌第 40 巻の出版に際して、本誌が会員諸氏の論文発表の場としてより一層活用され、より多くの読者に信頼される学術誌へと発展することを心より期待致します。